

年 題 「信頼を大切にする」

1. 子どもの主体的な成長を支援する。

- ・個別対応では、子どもの発達に応じ、部活動や小人数の活動、習い事の送迎時間など、生活の中で作り出せる時間を大切にしながら、子どもの言葉に耳を傾け気持ちに寄り添い、意志を実現させるための支援を心掛けてきた。
- ・集団生活においては、各部会や子ども同士の話し合いにて生活環境やルールの見直し、子ども同士の関係性等を一緒に考え、より生活しやすい取り組みにつなげられるように心掛けてきた。すぐに良い結果になるわけではないが、その都度話し合いを重ね、子どもと共に生活の向上を目指していきたい。
- ・性（生）課題については、生活の中で子どもが自然に取り組み、困ったことや疑問に思ったことは職員と語り合えることを目的とし、年齢別に内容を考えて性教育やCAPを引き続き行ってきた。日々の関わりの中で意図することや性教育の内容を職員間で話し合い、共通理解のもと養育を行っていけるよう努めていきたい。
- ・ケースカンファレンスでは育ちの検証や子どもを包括的に理解する事に努めてきた。また“つながりある養育”を目指し、低学年担当職員とかがやきの連携を密にし、職員同士の情報共有、「ちょこっと会」（子どもの幼少期を振り返る）や個人の生い立ちを振り返る取り組みを一緒にを行い、子どもや職員が“つながり”を体験できるように取り組んだ。
- ・今年度、第三者評価を実施し、職員が自分たちの養育のあり方を認め合い、具体的な改善策も打ち出しており、評価資料を基に子どものより良い生活環境の改善に向けて実施していけるよう努めていきたい。

2. 人材の確保と育成に努め、働きやすい職場づくりに努める。

- ・麦の穂学園で働きたいと思えるような広報として、施設の良さや特徴をわかりやすく紹介できるようなHPに変更したり、就職説明会等への参加を行ってきた。実習のあり方に対しては担当職員を固定し、一貫性を持って指導や相談しやすい配慮をし、就職につなげられるよう意識した取り組みをしている。希望者は体験実習を実施し採用試験に臨んでいる。
- ・職員が働きやすい環境として、勤務プロジェクトを立ち上げ、勤務時間の見直しということで協議を重ねながら、試験的に8時間勤務への移行に取り組み始めている。
- ・職員個別面談では「三つの家」を意識し、「自己の振り返りと目標」を聞くことを中心とし、更にその職員に期待することなども伝えてきた。その中で出た不安を軽減し、強みはさらに伸ばせるよう育成の視点を持ち、必要なアプローチを考え職員への還元を丁寧に行うことを目標としている、まだまだ不十分な点があるが学園全体として、大きな問題が起こった時に限らず、会議や行事の検案はもちろん、日ごろから職員一人一人の内なる気持ちを引き出し、寄り添い語り合い、ともに向上できるよう取り組んでいきたい。

3. 地域支援事業の充実と連携強化をする。

- ・地域行事を大切な地域交流の場として積極的に参加している。その中で出会った方々の意見や助言に耳を傾け、自分たちの養育の在り方を振り返る機会とし、大切にしている。
- ・関係機関との連携を強化するため窓口となる職員が意識して機関、職員間での情報を発信することが不可欠である。法人全体の関りとして互いの情報共有を大切にしていけることに努めている。